

天地

ネットワークテーブル 531号

天地シニアネットワーク 2022. 5. 17

TENTĪ TODAY 「米大リーグ大谷選手」「マスク」「JRのエスカレーター」		1
「プーチン大統領の思い込み」「(新聞)歩けると思わず転ばないようにするのが大切」		
シニアの声 「停止中原発の早急な再稼働を」「読書」「大学での高校教科の補修」		2
会員の広場		5
歴史考察	徳川家康の外交顧問になったウィリアム・アダムス(三浦按針) なぜ、アダムスは家康に評価されたのか (1)	5
歴史考察	台湾の歴史を学ぶ(2)	田口 秀美 8
回顧	国立慕情(13)「校歌」	津田 孚人 1 2
事務局		1 4

TENTĪ TODAY

米大リーグ、大谷翔平選手の通算100号となるホームランで、気分が明るくなりました。100号の節目をクリアしたので、これからはホームランの量産が見られると期待しています。大谷選手につづく日本選手が出ると、日本野球界の実力も本物といえるのですが...

マスクをはずしても良いような動きが出てきました。息苦しさもあり、外でははずしているのですがすれちがう人の眼が冷たく感じられ、はずしたマスクは手に持ちます。日本人は、思い込みが強過ぎるのか、不器用なのか、あるいは合理性に欠けるのか、不思議な民族と感じる時です。

JRがエスカレーター利用者に、片側一列ではなく、二列で利用するように呼び掛けています。二列に並ぶ方が大勢の利用者を運べ、駅の混雑が減るといいます。片側は急ぐ人のために空けておくが定着していますが、外国人が見たら理解不能でしょう。

ロシアのウクライナへの侵略、長期戦になりそうですが、経済面からみると戦争が長引けばロシア経済がますます追い込まれ疲弊するのは確実のようです。ロシアの国際的な地位、評判も低下し、その挽回には、2世代、3世代とかかるでしょう。後世へ悪名を残すつもりはないでしょうが、可能性はあります。**プーチン大統領が思い込み**を捨てて誰もが予想しないような大決断をすることを期待しています。

「歩けると思わず、転ばないようにするのが大切」 (新聞より)

直近月曜日の朝日新聞朝刊「声」の欄にのった千葉県在住で75歳の医師福武敏夫さんの投稿。高齢者への警告、何度聞いても、聞き過ぎることはありません。

「外出が楽しい季節になった。脳神経内科医として私が働く総合病院では、転んで大腿骨の骨折や頭部を損傷する中高年の方が多く、気になっている。若いころから歩くのが好きだったので当たり前と油断して、ちょっとした段差でつまずき、いつもの階段で足を踏み外し、風呂場で滑るのである。

ヒトは2本足で立ち上がったが、不安定な姿勢で倒れないように足を前に出すから歩ける。つまりこけやすさを歩行に利用している危うい存在なのだということを生物学者本川達雄さんの著書に教わった。かつて診たパーキンソンの患者さんで、治療で歩行が回復するたびに骨折を繰り返すひとがいたのを思い出し、わたしは反省した。

歩けるから大丈夫と過信してはだめだ。杖やシルバーカーを使う場合も、同様だ。思い改めたこの5年で、1千人近い患者さんとご家族に「歩けると思わず、転ばないようにするのが大切」と逆転の発想を勧めてきた。「転ばないこと」の普及に取り組みたい。」

「シニアの声」

停止中原発の早急な再稼働を

臺 一郎(74歳)

やむを得ない当面のエネルギー対策として、地元自治体の反対等により長期の停止が続いている全国の原子力発電所の早急な再稼働や、最新の石炭火力発電所やアンモニア火力発電所の建設・稼働促進などにより、電気料金の値上げを極力抑制乃至は回避することは、我が国が早急に為すべきエネルギー対策ではないかというのがこの稿の主旨である。

ロシアによるウクライナへの理不尽とも言える侵攻に対する西側主要国の経済制裁によって、西側とくに西欧各国ではロシア産の原油、天然ガス、石炭等の輸入量が急速に減っている。そして西側各国はロシアからの輸入が減って足りなくなった石油や天然ガスを、北米産や中東産の輸入等に切り替えることで乗り切ろうとしている。結果原油や天然ガスの国際相場価格はここにきて急激に上昇している。

とりわけロシア産の天然ガスや原油への依存度が高いドイツでは、ロシアによるウクライナ侵攻前に、天然ガスは 55%だったロシアへの依存度を3月末に 40%に、石

油は 35%だったのを 25%に、石炭は 50%だったのを 25%へと急速に引き下げた。しかしこうした拙速な対応の結果、都市ガス料金、電気料金、ガソリン代、軽油代等が早速に値上りを始め、低所得者層や年金生活者の家計を直撃し、社会問題化しているようだ。

ドイツは、前首相のメルケルが旧友でもあったロシアのプーチン大統領との関係や信頼を重視し過ぎて、ロシア産天然ガスへの依存度を簡単には引き戻せないほど高めてしまった。更に東日本大震災による福島第一原発の事故を受けて、独国内の脱原発を決め、2022 年末までに稼働中の原発を全て止めると決定した。しかしロシア・ウクライナ戦争が勃発し、最早ロシアの天然ガスや石油に依存できないことが明らかになるや、急遽原発や石炭火力発電所の運転を当分続けると言い出した。

さて、ドイツや西欧各国で起きているエネルギー価格の急激な上昇やそれがもたらす経済社会への深刻な影響は早晚我が国でも起きるといふか常態化する可能性がある。既に全国各地のガソリンスタンドではガソリン価格や軽油価格が二年前と比べるとリッター当りで 40 円前後値上がりしているし、今後更に上昇する可能性も十分にありそうだ。更にこれからは都市ガスや電気料金も大幅な値上げが始まるだろう。

ということから、放射性廃棄物の問題など我が国にとって長期的には望ましくない発電システムではあるが、CO₂ を一切排出しない点なども考慮すると、とりあえずのやむを得ない措置として、現在停止中の原子力発電所を早急に再稼働したり、世界最高レベルの排ガス対策を装備している石炭火力発電所などの運転促進や、CO₂ を一切出さないアンモニア火力発電所の建設を急ぐべきだろう。

化石燃料への依存度を減らすという意味では、太陽光発電や風力発電などの再生エネルギーを増やす策も確かにある。けれども、再生エネルギーによる発電は電源として電力が不安定という問題があるし、日本の美しい農地や草地在がギラギラと光る太陽光発電パネルで覆われたり、海岸部等に巨大な風車が林立する景観のおぞましさを見ると、国内で設置できる場所はかなり限られるように思う。

更に一次エネルギーにあつては、必要な量の確保と価格の安定性が経済安全保障の面からも必須の要件であることなどを勘案すると、安全性検査をクリアした原発の早急な再稼働及び最新の石炭火力やアンモニア火力などの稼働と建設促進は今直ちに実施・着手すべき対策なのではないだろうか。

ちなみに現在我が国で停止中の原発の大半が再稼働した場合、全発電量の 20%以上を原発が占めることになるだろう。大半が停止している直近の原発割合は 6%位だから、それらが再稼働すれば海外から輸入している LNG や石油による発電を 15%位は減らせることとなり、その分電気料金の値上りを抑制することになると推測さ

れる。

読書:

最近書物は極力新たに購入しないようにしている。専ら市の図書館で借り入れるようにしている。望む書物がなかなか手に入らないのが難点ではあるが、時間がかかってもいずれは読める様になる。

「人新世の資本論」(集英社新書,2020年)を友人から先に頂戴した。政治・経済資本主義は絶えず成長を求め、成長が止まると崩壊する、さらにプラネットの一つとしてのわれわれの住む地球に諸々の不都合な事態を惹き起こしていると論ずる主張である。いくつかの反論がなされているようであるが文藝春秋2月特別号でも「人新世の資本論に異議あり」との論文も掲載されている。

最近借りて読んだ「なぜ、脱成長なのか」(NHK出版2021年 The Case for DEGROWTH スペイン、ポルトガル、アメリカの4人の学者の著作、翻訳上原祐美子、保科京子)。脱成長に関してこの論文が縷々述べている。

「人新世の資本論」「なぜ、成長なのか」指摘している資本主義が求めざるを得ない「成長」のロジックに関しては、かなりもっともな面もあるかな?と思えるが、これに代わる考え方、生き方、方法についてはどうも納得が行きかねている。人間としての生来有している性質、特質、本能に合致していない様に感じてならないというのが小生の読後感です。なかなかの問題提起の論文なりとの読後感として綴ってみました。

大須賀四郎(84歳)

大学での高校教科の補修

日本経済新聞・朝刊に「空洞化する卒業証書・学び直し、企業も学校も」というのがありました。その中の一部「全員入学状態の大学は、AO入試、推薦入試、受験科目の縮減など、入試の軽量化が進み、その結果、高校レベルの学力がない学生が増え、補習授業が常態化している」。

高校の教科を大学が補修授業で補うのは、大学の親心のようにみえますが、本来、入学する力のない高校生を入学させ、高校の不足分の授業を行うというのは、おかしい気がします。少子化の時代、大学経営を維持するために目をつぶる、というのが大方の本音かと思いますが、ある種の詐欺行為に見えます。

海外に比べての学力低下が問題となっています。大人の都合で、若人の将来をスポイルするような行為は許されません。待ったなしで、国際社会の急速な、高度化する変化に、真剣に取り組まないといけない時期ですから、真摯な対応が求められます。

(天地シニア 津田)

会 員 の 広 場

徳川家康の外交顧問になったウィリアム・アダムス(三浦按針)

なぜ、アダムスは家康に評価されたのか

佐川 雄一(84歳)

はじめに

1588年、スペインのフェリペ2世(1527-‘98年、在位:1566-‘98年)はイギリス占領を企て、当時世界最強の無敵艦隊を派遣するが、イギリス王立海軍に駆逐され、スペイン軍は不覚にも敗れた。そのお陰で発展途上のイギリスは欧州社会で急速に存在感を高めていき、同時期、世界史に名を留める人材も多く輩出した。

無敵艦隊との戦いを前にイギリス王立海軍を馬上から激励し、後年スコットランドとの連合国家創立に尽力したエリザベス一世(1533-1603年、在位1558-1603年)、近代史上最高の劇作家:ウィリアム・シェイクスピア(1564-1616年)、マゼラン海峡を越え、モルッカ諸島、喜望峰を経て世界一周の航海を成し遂げたフランシス・ドレーク(1543-‘96年)、そして徳川家康の家庭教師的な役割を兼ねた外交顧問:ウィリアム・アダムス(1554-1620年)。

本稿では、これら傑出した人材のなかからウィリアム・アダムスを探りあげ、彼を外交顧問に迎え入れ、近代日本の骨格造りに貢献した徳川家康、この二人の関係に焦点を当ててみたい。

今から400余年前になるが、日本を訪れた最初の英国人:ウィリアム・アダムス(航海士)が大坂城で徳川家康と謁見する機会を得た。これが縁になって家康はアダムスの世界観(ポルトガル・スペインの宗教・貿易政策、多国間交易、日本の立ち位置)を聴取すべく頻りに面談を重ねることになる。さらに、家康は、彼を旗本に抜擢し、江戸城近くの日本橋按針町(現在の中央区日本橋室町1丁目、三浦按針に因んでその後、按針町と名付けられた)に屋敷を与えた。また三浦半島の逸見でも領地((250石)を拝領した。アダムスは三浦按針(“按針”の名は、彼の職業である水先案内人の意。姓の“三浦”は領地のある三浦郡にちなむ)の名乗りを与えられた。アダムスは、この破格の厚遇を得た事実を、後年、イギリスの未知の友人あての手紙の中で、「これはイギリスの封建貴族の身分に匹敵するものである。これまで日本で外国人に与えられたことがなかった」と誇らしげに伝えている。

アダムスと家康の関係は最初の出逢い(1600年)から家康が逝去する1616年まで続

くが、アダムスの能力・知識・経験を存分に活用した家康のしたたかな行政手腕は、21世紀の現在も新鮮に感じられる。

しかし、外国人材の登用に寛容であった家康の国際主義は、2代将軍(秀忠)、3代将軍(家光)につなぐことはできず、江戸幕府は鎖国(1639-1859年)への道を進んだ。それでも徳川幕府は概ね政治の安定を維持し、この間、将軍職に就任したのは15人のみであった。

徳川幕府の終焉とともに、明治期が始まり、大日本帝国憲法制定から130年経つが、この間に100人の首相が誕生する政治不在の状態に日本は置かれている。どこに問題があったのだろうか。明治期に確立された公民教育は、国家の命じることに忠実な「臣民」を作り出す「皇民教育」であった。

これに対し、家康・アダムスの間には腹藏なく自説を述べる自由と、相手の意見に耳を傾ける寛容さがあった。アダムスは、意見を聞かれたら、胡麻すりをせずに、ありのままものを伝える性癖があり、アダムスから影響を受けた家康はポルトガル・スペイン(列強)と対等の立場で外交・交易交渉の公務を司るまでに成長した。

1. ウィリアム・アダムス 彼の生い立ちと日本への旅路そして家康との大阪城における謁見

1-1) アダムスの幼年期から青年期まで

ウィリアム・アダムスは、1564年(9月24日)、ロンドンの東約50km、テムズ河に近接するメドウェイ河口の都市、ジリングムで誕生した。ウィリアムの幼少期の記録が乏しいため、幼少期のころはわからないが、アダムスが英語を読み書きできた事実から、父親ジョン・アダムスは商人であったとする説が有力である。ウィリアムが12歳の時、父親が死亡すると、故郷を出て、ロンドン近くのライムハウス、当時この町は造船が盛んで、そのなかでかなり名の知られていた造船工;ニコラス・ディギンズに弟子入りした。

その頃の徒弟修養期間は長く、奉公を終えたのは12年後の1588年であった。この間、造船の設計から建造、さらに航海に必要な天文学・航海術・測量術、幾何・数学を幅広く学んだ。

ウィリアム・アダムスが徒弟期間を完了する丁度その時、スペインのフェリペ2世が無敵艦隊をイギリス海岸に派遣する知らせがアダムスの耳に届き、本人は船大工の仕事には就かず、建造したばかりの小型船(リチャード・ダフィールド号、積載量120トン、乗組員25人)の船長として王立海軍に入隊した。この時の王立海軍副司令官は、南アメリカ大陸最南端のマゼラン海峡を越えて太平洋を回り喜望峰経由、世界一周航海を果たした英雄:フランシス・ドレークであった。

アダムスは、ドレーク提督の傘下に入り、王立海軍への弾薬・食料補給の任務に就いた。スペイン無敵艦隊との戦いは、僥倖もあったが王立海軍が勝利した。その後、アダムスは、軍艦の艦長か舵手(航海士)を目指すのが、若輩(24歳)を理由に昇格できず、これを不満として海軍を辞職した。このころ(1589年8月20日)、アダムスは富裕なロンドンの商人の娘;メアリ ハイン メイベルと結婚する機会を得た。アダムス24歳の時であった。メアリとの結婚から息子と娘がひとりずつ生まれた。

アダムスは王立海軍を除隊すると、モロッコとの貿易独占権を与えられたバーバリー商会に入社する。アダムスは同商会に10年ほど勤め、火薬の備蓄に必要な硝石をモロッコで購入、イギリスに海上輸送した。このころ多様な国籍を持つ船乗り・商人との交遊を広げ、国際言語であったスペイン語・ポルトガル語を習得する。

結婚後もアダムスの外洋航海熱は冷めず、長い航海に明け暮れていたが、ある時、トルコの海賊が跋扈する地中海に英国の羊毛を運ぶ仕事に関心を示す夫を見て、夫人のメアリは、危ない仕事から手を引くよう懇願するが、アダムスを説得することはできなかった。

他方、アダムスは度重なる大洋航海を経て航海術を深く学び、舵手としての評価は業界でも認知されるに至った。しかし、1597年、バーバリー商会はモロッコとの交易から手を引き、閉鎖した。この時、オランダでアジアとの交易を目指し、船団の派遣計画があることを知り、弟:トーマスとともに応募し、二人とも舵手として採用された。アダムス:34歳であった。

1-2) アダムス オランダのアジア船団に参加、日本に向けて航海する

1598年6月27日、総乗組員500人、5隻で編成されたハーゲル船団はロッテルダムを出港した。航行中、最終目的地に決定された日本に辿り着いたのは、リーフデ号1隻のみ、弟のトーマスは航海中に亡くなった。

- ① 旗艦:ホープ(Hope、希望)号、乗組員130人、500トン、
- ② ヘローフ(Faith、信念)号、109人、320トン、
- ③ リーフデ(Love、慈悲)号、110人、300トン、
- ④ トラウ(Fidelity、忠誠)号、86人、220トン、
- ⑤ ブライデ・ポーストスハップ(Merry Messenger、善い事)号、56人、150トン

船団は寄港地で売買する商品を積載し、敵軍(スペイン・ポルトガル人)との戦闘に耐えるだけの大砲・武器・弾薬を装備していた。マゼラン海峡を越えて太平洋に出た後、ヘローフ号は航海の行方に自信を失い、本国に引き返し、ロッテルダムに戻った。トラウ号はモルッカ諸島でポルトガル軍に、ブライデ・ポーストスハップ号はチリでスペイン軍に捕らえられてしまった。残るはホープ号とリーフデ号の2隻のみ、出発時130

人だったホープ号の乗組員は 33 人に、リーフデ号の乗組員も 28 人に減少していた。この時点で、アダムスと友人：チモシー ショッテンは、乗組員全員を 1 隻に集中し、他の 1 隻の焼却を提案するが、賛同が得られず、2 隻はそのまま航行することになった。訪問先については、残された積荷商品の多くが毛織物であるためモルッカ諸島（スパイスの買い付け地）に行っても商談をまとめることはむずかしい、それより中国を目指した方がよいとする意見が出る。この時、以前ポルトガル船で日本を訪れている乗組員：ディルク・ヘリツゾーンが、それより中国の手前に位置する日本を目指した方が毛織物の需要があり、好都合と提案、ここで最終目的地は日本に決まった。

2 隻はその後、1600 年 2 月 23 日、暴風雨に遭遇し、ホープ号とは離れ離れになり、それ以後二度と現れることはなかった。残されたリーフデ号は単独で日本を目指した。1600 年 4 月 11 日、アダムスが目を覚ますと朝焼けの中、遠方に山並みが視界に入ってきた。一瞬、夢ではないかと思ったが、翌日には陸地のすぐ近くまで辿り着いた。

ロッテルダムを出港して 22 ヶ月が経過していた。出港時の乗組員：110 人は、24 人に、そのうち自力で立ち上がり下船できたのは 7 人のみ、アダムスは幸運にもその一人であった。残る 17 人は衰弱が激しく、上陸後一週間以内に 6 人が死亡、日本で生存したのは 18 人であった。

ヤコブ・クアッセルナック船長も衰弱が激しく独力で立ち上がれず、船長の任務はアダムスが取り仕切っていた。この時点のマゼラン海峡越えのアジア航路は死と隣り合わせのリスクの高い凄惨なものであった。当時、マゼラン海峡を経由、アジアに出て、ヨーロッパに戻れた船団は、フェルデナンド・マゼランが率いた船団 5 隻のうちの 1 隻のみ、フランシス・ドレークの船団も 4 隻のうち 1 隻のみに過ぎず、アジアへの航海は、危険なマゼラン海峡を避け喜望峰を経由するルートが主流を占めるに至った。

アダムスのオランダ出港から僅か 4 年後の 1602 年には、オランダは 10 隻以上の商船をアジアに派遣するが、すべては喜望峰経由になっていた。

(つづく)

「台湾の歴史を学ぶ」(2)

田口秀美 (72 歳)

(『八王子市南大沢 歴史の会』所属)

台湾は、九州と同じくらいの面積で、澎湖諸島など 76 の島々で構成されています。中国大陸とは、早い海流が流れる台湾海峡で約 200 km 離れ、サンゴ礁が点在するバシー海峡を挟んでフィリピンのルソン島とは約 350 km、沖縄県の与那国島とは、わずか 120 km の距離です。国土の三分の二が山地で、60 を超える 3000m クラスの山々がそびえます。

台湾の歴史を時代に沿って、重大な出来事とおしてたどってみたいと思いま

す。

- ① 先住民の人々の時代。オランダ植民地の時代。
- ② 鄭成功王国。
- ③ 清朝時代。
- ④ 日清戦争と日本統治時代。
- ⑤ 日本の敗戦と撤退。
- ⑥ 国民党の来台。
- ⑦ 228 事件。
- ⑧ 戒厳令と白色テロの時代。
- ⑨ 戒厳令の解除と新党の誕生。
- ⑩ 228 和平記念日。

① 先住民の人々の時代。オランダ植民地の時代。

大航海時代の 1544 年と推定されるころ、台湾の沿岸を航行していたポルトガル船の乗組員が、台湾の美しい島影を眺めて「イラー フォルモサ！」（なんと美しい島だ！）と叫んだことから、航海者の間では、「フォルモサ」（うるわしの島）と呼ばれていました。

1581 年に、カソリックの国スペインとの戦争のさなか、独立宣言したプロテスタントの国オランダは、スペイン、ポルトガルに遅れて東洋に進出してきました。独立した頃のオランダの人口は、150 万人から 190 万人と記録されています。1596 年に、インドネシアのジャカルタを占領、ジャカルタをオランダ人の祖先として語り継がれる「バターフ人」にちなみ「バタビア」という地名にしました。

1602 年、投資を募り利益を投資家に還元する、世界で初めての株式会社「オランダ東インド会社」を設立しました。1623 年、インドネシアと中国、日本との交易の拠点にしようとして澎湖島に上陸しました。しかし、明王朝軍の反撃を受けて 8 ヶ月の攻防の末、台湾を占有することを交換条件に撤退しました。明王朝にとって台湾は、まだ地理に不案内で風土病の蔓延する恐ろしい未開の地と思われていたからです。

1624 年 8 月、オランダ艦隊は現在の台南市近くの安平に上陸しました。さっそく城塞の構築に取りかかりゼーランジャ城を築き、翌年 1625 年にプロビンシャ城を築きました。この城跡は現在も台南市に残ります。

当時の台南周辺には、先住民の「シラヤ族」が住んでいました。シラヤ族の言葉で、「お客様」を「タイアーン」と発音していたことから、「台湾」の語源と言

われています。シラヤ族は文字を持ちませんでした。文字のなかったシラヤ族の人々に派遣されてきた宣教師が、シラヤ語をローマ字で表し聖書を作り布教しました。

しかし、上陸してきたオランダ人は「お客様」ではありませんでした。オランダ東インド会社は、台湾のすべての土地を会社の所有として居住民に貸し、収穫物の5%から10%を小作料として収奪するうえ、7歳以上の人すべての人に税金を課税する人頭税を取り立てました。38年に及ぶ台湾占領で、オランダ東インド会社は莫大な利益を得ました。バタビア（現在のジャカルタ）から東南アジア産の香辛料、スズ、琥珀、木綿、アヘンを運び、日本から銀を輸入、中国から、絹、陶器、漢方薬剤、金を輸入し、中国に砂糖、干鹿肉の他、バタビアで集荷した東南アジアの産物を輸出しました。

オランダ東インド会社が、台湾占領に投入できた人員は約2000人で、半数は兵士、傭兵でした。城塞に設置された大砲は、ポルトガル、スペイン、イギリスの侵入と移住民、先住民の反乱に備えていました。過酷な労働と搾取のため、先住民、移住民の暴動、反乱が何度も発生しましたが、武力の優勢なオランダ軍に制圧されました。1635年と翌年に発生した先住民の人々の大規模な暴動は、制圧され多くの人々が殺りくされました。また、1652年に、郭壘一を首領とする16000人の反乱軍は一時プロビンシャ城を占拠しましたが、やはり武器の優劣から5000人以上が殺害され制圧されました。

しかし、1662年2月、台湾を占領していたオランダ東インド会社は、廈門、金門から400艘の船でやって来た25000名の鄭成功将軍の軍に降伏、バタビアに退去して行きました。オランダ東インド会社の台湾占領は、38年に及びました。

② 鄭成功王国

オランダによる台湾占領と同じころ、中国では満州族が膨張していました。1636年に「後金」から「大清国」に改め朝鮮を服属させ、漢民族の明王朝を脅かす勢いでした。明王朝は、福建省から東アジア海域に勢力を持つ鄭芝竜の軍事力と資金を頼りました。鄭芝竜は、長崎・平戸の館に平戸藩士・田川氏から妻を迎えていました。その息子・福松（1624年～1662年、後の鄭成功）は、7歳の時に母と弟と共に大陸に渡りました。

この頃の明王朝の命運は風前の灯火でした。1644年に宋禎帝が自害し、明王朝は南京で福王を弘光帝として擁立しました。弘光帝も清国軍によって1年で倒され、鄭一族の支援を受け福州で唐王を隆武帝に擁立しました。

隆武帝に拝謁した21歳の福松あらため鄭森は、明王朝の姓「朱」を授かり名前

も「成功」に改めました。「国姓爺・鄭成功」の誕生、由来です。1646年8月、福建を包囲した清国軍は隆武帝を捉え、鄭芝竜に官職と引き換えに降伏を促してきました。鄭成功は拒否し、応じようとした鄭芝竜は北京で幽閉され、母の田川氏は自害しました。

隆武帝が崩じたことを知って、広東に逃れていた桂王は1647年、永歴帝に即位しました。各地を転々と逃れる永歴帝は1653年、鄭成功を「延平郡王」に封じ、1661年に崩じました。

鄭成功と、その一族は明王朝が終焉しても年号・永歴を奉じ続けました。「反清復明」（清を倒して明の時代を復活する）の志で各地を転戦し、鄭成功は、日本の徳川幕府に援軍要請の手紙を書いています。儒学者の朱舜水が、日本請援使として鄭成功將軍の手紙を持って日本に來ています。

今も残る手紙には、「それがし、日本に生まれれば、もつとも日本を慕う心ふかし。今、艱難の時分なれば憚りながら、日本より我を伯父、甥のごとく親兄弟のごとく思し召して恵の心あらんことを願う。それがし生まれいずる国なれば、懇ろの志を起し、数万の人数を貸したまい大明に渡し給えば大きな誉れ、末代に残り伝わらん。」と切々と訴えています。

この要請に応じ、紀州の徳川頼宜が兵を率いて大陸に渡ろうとしました。しかし、島原の乱（38000人のカソリック信徒が長崎の原城に立てこもって戦った）のあと、鎖国政策（外国と交流しない）になったため援軍が行くことはできませんでした。

鄭成功將軍の手紙を日本に持って來た儒学者・朱舜水のように、明王朝の末期に中国から日本に多くの文人、学者が渡來し、大名家が彼らを招聘することが行われていました。朱舜水は徳川光圀により水戸藩に招聘され、水戸藩の學問に大きな影響を残しました。

1715年に大阪では近松門左衛門が、鄭成功を描いた人形浄瑠璃「国姓爺合戦」を上演して大きな人気を博しました。「国姓爺合戦」は現在も、文楽（人形浄瑠璃）と歌舞伎で演じられています。

1661年、鄭成功將軍は各地を転戦して、福建の厦門、金門に在陣していました。そこに、オランダ東インド会社の通訳をしていた何斌が訪れ、台湾の豊かさを説明、侵攻をすすめました。鄭成功將軍は400艘の船で25000人の將兵を率い台湾に上陸しプロビンシャ城を占拠、ゼーランジャ城を囲んで、オランダは降伏。バタビアに去って行きました。38年に及ぶオランダの占領が終わりました。1661年に鄭成功將軍がオランダを追放した当時の台湾の人口は、先住民が約15

万人から約 20 万人、漢人が約 5 万人と推定されています。そこへ、鄭成功将軍の将兵と家族約 3 万人が移住してきました。先住民と移住民の土地を侵害しないように開発が進み、農地の開拓地が広がりました。台湾を「東都」と改称しました。

しかし 1662 年 5 月、「反清復明」の志を遂げないまま台湾に来て 1 年に満たないで、鄭成功将軍は疫病のために 39 年の生涯を終えました。オランダを追い払い、台湾を開拓した鄭成功将軍をたたえ「開山廟」が建立され現在も「開山廟」お参りする人が絶えません。

鄭成功将軍が亡くなったことを知って、厦門に在陣していた長男の鄭経（1642～1681）が、7000 名の将兵と家族を率いて台湾に移ってきました。鄭経の時代も、その子、鄭克塽の時代も、清国と緊張関係にあり、ついに 1683 年 7 月、清国に恭順して 3 代 23 年間の鄭氏政権は終焉を迎えました。

同じ年 1683 年、台湾にいた明王朝の最後の王・寧靖王は最期を覚悟しました。そのことを知って、深く嘆いた二人の妃と三人の官女が自害しました。寧靖王は、五人を丁寧な葬って自ら命を絶しました。五人は「五妃廟」として台南に祀られ、現在もお参りする人が絶えません。（つづく）

国立慕情(13)

津田孚人(84歳)

<きのう、何をしたか><朝、何を食べたか>など、直近のことは忘れるのに遠い少年時代の思い出はしっかり覚えている、人間は不思議な生き物です。小学5年生のころ運動会の応援歌が作られました。いまでも紅組の応援歌、歌えます。

「校歌」も同様です。小学校はありませんでしたが、中学、高校は、同じ「校歌」、そして大学、卒業して企業に入ると「社歌」がありましたがいずれも覚えています。

日本では、ほとんどすべての学校に「校歌」があります。大学時代は、「校歌」のほか、旧制の「寮歌」、ボート部の「応援歌」が、そしてプロ野球の阪神タイガースには、応援歌「六甲おろし」があります。日本人は団体を組むと、「団体歌」をつくる癖、傾向があるようで不思議です。

先日、ニュースで「和歌山県新宮市出身の作家、佐藤春夫(1892～1964 年)を命日にしのぶ「御供茶式」が 6 日、世界遺産・熊野速玉大社の境内にある市立佐藤春夫記念館で開かれた。新型コロナウイルス禍で中止が続いたが、今年は生誕 130 年でもあり、3 年ぶりに復活となった」と報じられました。佐藤春夫は、桐朋中・高の「校歌」の作詞者、前々から関心があり、かつて新宮市にある佐藤春夫記念館を訪問したこともあります。文語体の格調高い歌詞と、信時潔作曲の厳なメロディーは、卒業して7

0年近くになった現在でも鮮明に頭に浮かびます。

桐朋「校歌」の誕生経緯について知らない卒業生が多い。2016年10月発行の「桐朋学園・男子部門 創立75周年記念誌」に故水沢竜夫先生(高校3年時の担任)が、『往時茫茫』という文章を寄せられ、経緯を説明している。水沢家を抜きにして、桐朋学園校歌は無かったといえそうです。「校歌」誕生をまとめてみました。

国立の丘にして
学校(まなびや)のよき窓は
老い松の枝越しに
富士ありて若人(わこうど)を
おほらかに教え居(お)る
天地(あめつち)に 人な愧(は)ぢそと

玲瓏(れいろう)と仰がるる
高根なる雪に似む
わが心俯して知る
武蔵野の春秋(はるあき)に
少年は老い易し
天地(あめつち)は 永遠に新に

好(よ)き友の寄り集い
多摩の岸 玉攻(たまみが)き
志いや高く
名もゆかし桐(きり)の朋(とも)
鳳凰(おおとり)の雛(ひな)の家
天地(あめつち)の真実(まこと)啄(ついば)み

「校歌」が制定されたのは、昭和25年2月です。どちらの「校歌」もだいたい戦後生まれで、口語が普通ですが、桐朋の「校歌」のように戦後生まれで文語体というのは珍しい(昭和26年制定の一橋大学の「校歌」も口語)。佐藤春夫は、郷里新宮の学校の「校歌」や、その他の学校の「校歌」を引き受けていますが、口語体がほとんどです。したがって桐朋の「校歌」が何故文語体の「校歌」だったのか気になります。

まず、第一はやはり佐藤春夫が作詞者だったからとなりそうです。法政大学での佐藤春夫に関するこんなエピソードがあります。

市ヶ谷キャンパスへの移転、さらなる発展を目指して、1929(昭和 4)年、学生の中に校歌作成委員会が結成され、学生投票により作詞は当時予科講師だった佐藤春夫、作曲は近衛秀麿に決定した。ところが、佐藤春夫の作詞が、あまりにも固いものだったので、近衛秀麿が「作曲ができない」とクレームをつけ、二人の間に激しい論争が起きた。大学の関係者は、郷里熊野に帰った佐藤を追いかけて歌詞をもらい、近衛が作曲したのは洋行する途中のシベリア鉄道の車中だった。

佐藤春夫は、もともとから、文語体の格調高い校歌を作っていたと考えられます。そしてその次、というより一番のポイントは、縁もゆかりもない佐藤春夫に、どうして頼むことになったのか、その橋渡しは誰がしたかということになります。その答えは、佐藤春夫と水澤家と特別な関係があったから・・・ということになる。まず、佐藤春夫と水澤家との関わりについては、水沢家・自家本の「父母の回想・水沢利忠他」の巻末に掲載されている佐藤春夫が北海タイムズに連載した「わが北海道」で知ることが出来る。それによると

佐藤春夫が一人息子の家庭教師を探していた時に、小学校の受け持ちの先生(札幌師範出で、前札幌師範の教師)が、教え子で高等師範の学生となっていた水沢利忠氏(水澤竜夫先生の兄上)を推薦した。

佐藤春夫の水澤家にたいする称賛

「まことに頼もしく親切な努力型の真面目な学生」「わが水澤君は、昭和16年、高等師範入学二年目の秋から、わたくしの家へ初めは週二回、やがて週三回来てくれた」「昭和19年5月、戦争は苛烈になる一方で、東京は日夜の空襲で市民は安き心もなく水澤君は時に帰途を阻まれて、わが家に泊ることもあった」。「この間に、利忠君の二弟も兄を見習って二人とも次々と札幌師範を出て東京の高師へ進出し、利忠君に伴われて我が家へも出入りするようになっていた。わたくしは、水澤一家の奮闘的な家風に感心した。」

「中学一年になっていた倅の友だちの家のある深川に大空襲があった。その友達一家は焼死したらしいとわかった。倅が、その友だちが思い出されて悲しいのだというのを聞いて、わたしもすぐ疎開を決めた。留守は水澤三兄弟が引き受けてくれるという。これは大に安心である。」

「わたしは、水澤三兄弟の三消防夫に家を託して疎開した。おかげでわが家をはじめ隣組もみな兵火をまぬがれた。思えば、父は北海道のおかげで大逆囚の罪をまぬがれ、わたくしは兵火をまぬがれた。まことに北海道とわたくしとは奇しくも好因縁である。」

(つづく)

事務局

天地シニアネットワーク事務局（津田 孚人）

〒116-0001 荒川区町屋3-2-1

ライオンズプラザ町屋703

メールアドレス：tentisenior06@gmail.com

電話・FAX 03-3819-7651